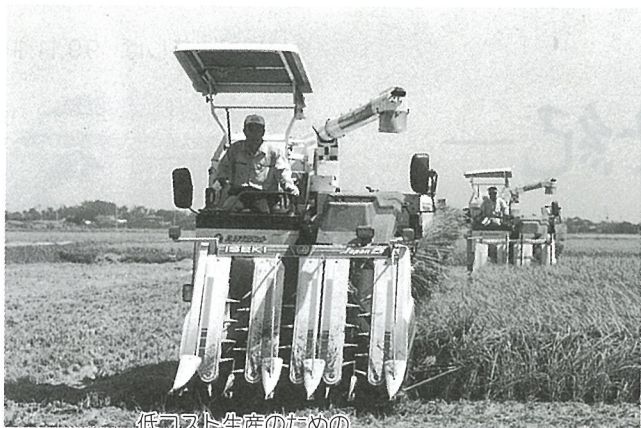




低コスト生産のための
集団化・大型化が進む稲作経営

農政問題

るよう努力してまいりたい。町では現在、坂田池地先から本町地先までを県道横芝下総線バイパス改良ということで事業着手しており、これをさらに国道126号、JR総武本線を超えて栗山地区を通過しながら県道横芝上堺線と接続できれば、駅前道路の混雑解消にもつながるものと考えている。まだ計画段階ではあるが、これらについての要望とともに、駅前交差点の改良についても併せて要望してまいりたい。

問 ①米価格の下落や転作目標面積の増加など、農業情勢はさ

らに厳しさを増しているが、今後、町単独で、転作目標面積を達成した農家に奨励金を出すなどの施策は考えていないのか。

②将来、転作の達成率が50%、40%台になった場合でも、各事業に対しての国や県からの助成は受けられるのか。

答 ①米の過剰問題に対応するため、昭和46年度から本格的に転作が行われてきたところであり、当町では農家のみなさん方大変なご理解とご協力により、これまでほとんどどの年度で100%を超える達成率を示してきた。しかしながら、近年は耕作面積の30%を超す高い配分率になり、また、新食糧法によって作る自由、売る自由が大きくクローズアップされてくると、目標面積の達成も非常に難しくなってきた。現在、転作の実施面積に比べて10アール当たり一律二千元を、また更に、農家組合ごとに割り当て面積を達成した組合には、一戸当たり千円を合わせて交付している。しかしながら、農家にとって転作問題は、お金だけで済むものではないようであり、あまり極端な推進は難しい面があると思っている。いずれにしても、米価の下落に歯止めをかけ、稲作農家の経営安定を図っていかねばならないものと考えており、生産調整推進対策

防災対策

協議会等で十分検討しながら、今後の対応を図ってまいりたい。

②今後、国では過去のように法的なペナルティというものは出さないようであるが、これから、補助事業の申請をする段階で、転作の達成率は事業採択するうえでの大きな判断材料の一つになるようである。

問 ①坂田池公園入口の駐車場に街灯や消火栓等を設置し、緊急避難場所に指定してはどうか。

②現在設置してある備蓄倉庫には、どのようなものが全体でどれだけ備蓄してあるのか。

答 ①町では、地域防災計画に基づいて、町内の各小中学校及び保育所、敬愛高校、文化会館等の12箇所を広域避難場所に指定しており、各地区の集会所や共同利用施設等42箇所を一時的な避難場所として指定している。坂田池公園についても、一時的に大勢のみなさんが寄り合える場所なので、今後、避難場所として使用できるよう照明等の設置やその他の施設について再検討してまいりたい。②避難者の救護等に必要な物資や機材等を収納保管する備蓄倉庫は、各学校など六箇所の広域避難場所に設置しており、現在、備蓄品と

環境問題

して、土のう袋やブルーシート、鍋、ガス釜等のほか450人分の毛布、6,000食の乾パンや飲料水を保管してある。今後も、必要性の高い物から少しずつ増やしたいと考えている。なお、乾パンや飲料水については、賞味期限があるため、古くなったものから随時入替えを行なっている。

問 今年が雨が少なく、気温も高かったためか、坂田池にアオコが異常発生した。地域住民が悪臭で悩み、水鳥が棲めない坂田池では困るため、何か対策を講じてほしいのだが。

答 坂田池のアオコ問題に関しては、施設を利用するみなさんや近隣の方々から苦情を受けており、町としても現在、水資源開発公団等と協議しながら対策を検討しているところである。アオコをなくすためには、まず水の流れをよくすることが最も大事なことであり、取立幹線排水路や姥山、遠山方面から流れる水が坂田池に入り込めば状況も違ってくると思われるので、今後、事情をよくご存じの地元の方々と相談しながら、坂田池の水を共用している水資源開発公団と更に協議を重ねながら対応していきたいと考えている。



散策やジョギングなど多くのみなさんが、
“憩いの場”として利用している「ふれあい坂田池公園」